

自己評価

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者評価	次年度への課題と
		評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見
安心・安全な学校づくり	<p>(全校レベル)</p> <p>I)児童生徒一人一人の人権を尊重した教育の徹底</p> <p>II)事故防止、感染症予防対策の徹底</p> <p><下位組織レベル></p> <p>①ポジティブな行動支援(PBS)の取り組みを通して子どもの自尊感情を高める指導の充実を図る</p> <p>②児童の安全や健康についての情報共有及び事故防止対策の徹底</p>	<p>評価指標</p> <p>①学部内アンケートにおいて、PBSの取り組みを通してポジティブな関わりができたと回答した学部教員が、全体の90%以上になる。</p> <p>②学部内アンケートにおいて、児童の安全や健康についての情報の共有ができたと回答した学部教員が、全体の90%以上になる。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 2ヶ月に1回行うグループ別進捗状況検討会において、子どもに対しての褒め方や、良かった関わり方等についてグループ内で発表をして共有する。</p> <p>①-2 各グループの中で最も良かった褒め方・関わり方について、学部報告会(2ヶ月に1回)において全体で共有する。</p> <p>①-3 年度末にアンケートを実施し、ポジティブな関わりについてできたかどうかを確認するとともに、次年度へ向けて改善策を検討する。</p> <p>②-1 毎日1回以上学部内を学部長が巡視し、児童の状況や環境について確認を行い、必要に応じて改善や情報共有を行う。</p> <p>②-2 毎週の学部会・終礼で、各児童の健康面・安全面での配慮事項について情報共有を行う。</p> <p>②-3 ケガや事故につながる恐れのある事象が起きた場合は、インシデント・アクシデント報告書を作成し、学部内もしくは学校全体で注意喚起や事故防止対策を行う。</p> <p>②-4 年度末にアンケートを実施し、次年度への課題と改善策を検討する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①学部内アンケートにおいて、『ポジティブな関わりを意識することができたか』『他の教員のポジティブな関わりを指導に生かされたか』という2つの項目について、それぞれ「できた」「だいたいできた」を合わせて100%という結果であった。</p> <p>②学部内アンケートにおいて、「共有できた」が71%、「だいたい共有できた」が29%で合わせて100%という結果であった。児童の健康に関することや、気にかけていることなどを、定期的に共有することができた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 2ヶ月に1回程度、小グループで検討会を実施した。他の教員の褒め方や、自分の褒め方、児童に効果のあった褒め方などテーマを決めて発表し合い、褒め方や関わり方をグループ内で共有した。</p> <p>①-2 学部報告会において、それぞれのグループで出た良かった褒め方等を発表することで、学部全体で情報を共有した。報告会の時間を取ることが難しいときは、話し合いの内容をまとめた資料を教員に配布した。</p> <p>①-3 アンケートを実施し、全員の教員がポジティブな関わりを意識することができたと確認をした。この取り組みを通してポジティブな関わりを意識できるという意見や、他の教員のやり方を知ることができるといった意見があった。</p> <p>②-1 補教等で巡視が難しい日もあったが、1日1回以上の巡視を実施した。各クラスの児童の状況を確認し、必要に応じて情報を管理職や関係者に共有するように努めた。</p> <p>②-2 週1回、学部会や終礼で児童に関する情報の共有を行った。各児童の健康面や、行動面で配慮が必要な事柄について、こまめに情報を共有した。</p> <p>②-3 数件のインシデント・アクシデントが発生し、その当日に担任と一緒に話し合い、報告書を作成した。学部内では、報告書を回覧するとともに詳しい状況や今後の改善策を部会で伝えた。</p> <p>②-4 学部内アンケートを実施し、全員の教員が「共有できた」「だいたい共有できた」と回答した。改善等についての意見はなかったが、来年度の状況を見て改善策等を今後検討していく。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①取り組みの中で、児童に対してのポジティブな関わり方を意識できるように「褒め方の共有」を行うことで、各教員がポジティブな関わりを意識することができた。自分の関わり方を振りかえるだけでなく、他の教員の褒め方を聞くことで、色々な褒め方についてや他のクラスの児童との関わり方について知る良い機会にもなっている。アンケートでも、『今後も継続できたら』『グループで話し合うのは良い機会になる』との意見があり、今後も取り組みを継続していきたいと考える。</p> <p>②日々の巡視や、学部会・終礼でのこまめな情報共有を行うことで、学部全体で安全面への配慮等を行うことができた。インシデント・アクシデントの事案についても、担任間や学部内でしっかりと現状や改善策を共有できており、それによって再発や似た事案の発生を未然に防ぐことができていると考えている。今後も同様の取り組みを継続していきたい。</p>	別紙	<p>①ポジティブな行動支援の取り組みは、児童にとっても教員にとっても、効果のある取り組みである。これまで改善等を重ねてきたため、今後とも流れを継続をしていき、必要があれば改善を考えるようにしたい。</p> <p>②今年度、各教員が児童の健康面や安全面に配慮をすることで、大きな事故やケガはなく過ごすことができた。次年度も、定期的な情報共有を行うとともに、巡視などで早めの対策を行うことで、児童にとって安心・安全な学校になるようにしていきたい。</p>	
	多様な音むキャリア教育の展開	<p>(全校レベル)</p> <p>I)児童生徒及び保護者の教育的ニーズに応じた教育活動の実現</p> <p><下位組織レベル></p> <p>①基本的な生活習慣や日常生活に必要な基礎的な知識・技能を養い、児童の自立度を高める</p>	<p>評価指標</p> <p>①個別の指導計画の短期目標設定時に、「日常生活の指導(朝・給食・帰りの)日常生活チェックシートを活用して、目標を1つ以上設定する。その目標を達成した児童が全体の90%以上になる。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 4月に、日常生活チェックシートを活用して日常生活の指導に関する実態を把握し、短期目標の立案をする。</p> <p>①-2 4グループに分かれて検討会を実施し、指導に関する進捗状況を把握する。目標や手立てについて検討が必要な事例や指導方法で悩んでいる事例について、グループ内でアイデアを出し合う。</p> <p>①-3 出しあったアイデア等については、学部報告会で全教員に共有する。</p> <p>①-4 年度末にアンケートを実施し、各児童の目標に対する達成状況をまとめることと、次年度への課題や改善策を検討する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①前期・後期ともに、各児童ごとに1つ以上設定して取り組み、前期・後期ともに98%の児童が目標を達成した。前期は1名が指導継続となっていたが後期には達成できた。また、後期は1名が登校できていないことから評価ができていないが、その他の児童は全員達成となっている。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 4月・8月に日常生活チェックシートを確認して、前期・後期の短期目標をそれぞれ設定した。</p> <p>①-2 2ヶ月に1回程度検討会を実施し、指導の進捗状況や悩んでいる事例について話し合った。色々なアイデアを出しあうことで、指導方法を考え直すことができ、改善する事例も多かった。</p> <p>①-3 学部会や終礼のときに、報告会を実施した。指導についてのアイデア等を各グループから発表し、全員で共有した。</p> <p>①-4 アンケートを実施し、達成状況を把握した。改善策や課題は、アンケートには出ていなかったが、今後必要に応じて検討していく。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>①日常生活チェックシートの活用により適切な実態把握と目標設定ができたことで、92%以上の児童が目標を達成することができたと認められる。また、記録を取りながら定期的に検討会を実施することで、指導の見直しや改善ができたことも良かった点である。検討会について他の教員に相談して指導方法を見直したことで、児童ができるようになったという事例も多かった。この取り組みは今後も継続し、日常生活の中でできることを、児童一人ひとりに合わせて増やしていきたい。</p>	別紙	<p>①次年度以降も、日常生活チェックシートを活用して、適切な実態把握と目標設定ができるようにしていきたい。今年度は、検討会の実施回数が昨年度より少し少なかったため、来年度はもう少し実施ができたことを考えている。ただ、教員の負担にならない程度での実施としたい。</p>

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった